社会医療法人
同仁会
Dojinkai
Social Medical Corporation

私たちの理念「一視同仁」

同仁会報みみはら

2016年６月１日発行
第44号

民医連

発行　社会医療法人同仁会　同仁会報編集委員会　〒590-0824　堺市堺区老松町２丁58-１
TEL 072(244)7260　FAX 072(247)0165　URL http://www.mimihara.or.jp（同仁会HP）

熊本地震支援 熊本の医療を守る 被災された人のいのちを守る

４月14日・16日、熊本県を２度の大きな地震が襲いました。九州で震度７を記録したのは観測史上初。死者49人、震災関連死19人、避難１万人、被害１８８７億円にのぼります。全日本民医連は熊本市のくわみず病院を拠点に、県内各地の事業所機能を維持するとともに、益城町や南阿蘇村などの地域支援に取り組んでいます。

５月13日時点で、全国の民医連からの支援者は、累計40県連　６２８人（同仁会グループから19人）となっています。

支援参加者からの報告

私は、被災から１週間経過した４月20日に熊本入りしました。被災者の支援・現地病院スタッフに休息をとってもらうことが目的でした。同仁会から一緒に出発した瀧医師と森事務長は避難所を回り、私は病院支援となりました。

くわみず病院１階には20人の避難がおられました。中には子どももいて、病院の廊下のソファーで勉強をしていました。地震当初は70人ほど避難者がいたようです。１００床の病床に１１０人を受け入れている中、被災された高齢者の方へ、夜勤業務でケアを行いました。

現地の職員は、避難所や車中泊で生活しながら出勤をしている方が多くいらっしゃいましたが、総師長をはじめ、スタッフも疲れている中笑顔で接していて、胸が熱くなりました。

（耳原総合病院　堺副看護部長）

◇　◇　◇

支援者も受け入れる側も心はひとつ、再び〝暮らし〟が始まるまでには長期の支援が必要です。民医連として継続した支援を行っていきます。

斉藤理事長（写真右端）が檄文を松本久先生（くわみず病院副院長／耳原総合病院前病院長　右から２人目）へ。松本先生は奥様手作りのサラダを毎朝福祉センターに届けておられます（５月３日）

避難所を訪れて診察する瀧医師◀▼

ガレキの片付けをする長尾事務次長▼

災害に強い病院をめざして

BCP模擬訓練

BCP（事業継続計画）策定プロジェクト活動中

阪神淡路大震災・東日本大震災・九州熊本地震と多くの震災に見舞われるわが国で、近い将来、近畿圏においても南海トラフによる震災が予想されています。いつ起こるかわからない大規模災害、特に〝人命に携わる医療機関における災害対応は急務の課題〟と、これまでの災害対策マニュアルの見直しを含めた取り組みを、２月からスタート。模擬訓練や発生後にとるべき緊急体制などの取り組みのさなか、熊本地震が発生しました。

新病院は耐震構造対策を実施した建物ですが、震災支援を通じて見えてきた新たな課題を整理しながら、可能な限り業務を継続することのできる体制＝BCP（事業継続計画）を策定し、地域の患者さんにとって、安全・安心・信頼の医療をめざします。